

端神郷はどこを見ても石畑であり地味は貧しい。毎年農作業のかたわら、石を取り除き一か所に積み上げ、できた石の山を六郷では「かくら」とよんできました。端神はその名の如く神々が多く座するところであり、天神森の守護神・明神信仰が存在するなど祠は20を越え、草木や野の石にも神々が宿ると信じられてきました。

山根は山紫水明に
 されて自然に恵
 まれた地域です。
 藩制時代山根六郷
 (深田・木売内・細野
 ・端神・上戸鎖・下戸鎖
 の六村の総称)と呼ばれ、久
 慈・野田海岸の塩や海産物・鉄
 等を内陸へと運ぶ交通の要衝として
 栄えてきました。

戦後のエネルギー革命に伴い人口の流出が続く、今日六百人余りの人々が先人の残した自然や暮らしの技を大切に伝承する「ちゃっこいふる里」です。

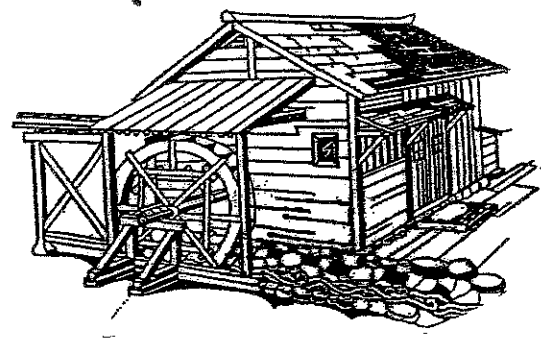
ふる里の源流

山根端神郷は標高三五〇メートルの典型的な山間高冷の雑穀地帯です。私たちの先人はこの地を拓き、営々と生活の知恵やふる里人の心を育くんで来ました。今日三十二戸が心を寄せあい暮らしています。

桂の水車を核として人を慈しみ、清貧でおおらかなふる里の心を伝承し源流の山・川の保全、文化景観の創造に努めております。

水車は、「桂の大樹」のある広場に昭和55年迄形態が残されていたものを、調査資料をもとに忠実に復元新築され、「桂の水車」と名づけられました。

材料は地場産材を使用し、水車のカラクリは古老の指導をいただき、地元の大工さんの手により製作、くるま大工の技が伝承されました。



水車まつり・くるま市

昭和63年桂の水車が復元され、端神のシンボルができました。平成元年水車のある暮らしの中から味の伝承グループ桂水会が誕生し部落の総意で出来た「桂の水車」は伝承活動の場となりました。源流の技や食文化を通じて町の人々との交流をはかりながら確かな伝承を願い、「水車まつり」や「くるま市」が開催されるようになりました。

別嬪村の由来

平成3年7月30日、森繁久彌氏がヨットで日本一周の旅の途中久慈市に立ち寄られ、久慈市長の案内で「桂の水車」を訪れ、婦人方のふる里料理にいたく感激され、『別嬪村』と命名し、由来記の看板を揮毫しました。森繁久彌氏は秋の叙勲で、文化勲章を受賞。この名誉ある揮毫を末永く守り、さらなる山根六郷の発展と源流の保全伝承を祈念し、別嬪村村民憲章を制定して、平成9年5月、別嬪村の旗揚げをする。

桂の水車ふる里まつり ~令和元年市曆~ ちゃっこいふる里伝承

5月5日	5月水車市 <small>くるまいち</small>	水神様お迎え
6月2日	6月水車市 <small>くるまいち</small>	山菜市
9月1日	9月水車市 <small>くるまいち</small>	そばの花市
10月6日	10月水車市 <small>くるまいち</small>	出来秋の味覚
11月3日	第60回水車祭り	収穫感謝祭
12月1日	12月水車市 <small>くるまいち</small>	予定

企画協力
 山根六郷研究会 ☎ 53-5281
 久慈ステーションホテル内

主催 久慈市山根町・端神郷「桂の水車ふる里まつり」実行委員会

ふる里伝承館石神座

◎別嬪村村民憲章

わたくしたち「別嬪村」村民は

1. 郷土を愛し、清らかな源流を守ります
1. 昔郷を誇り、伝来の技と心を伝承します
1. 夢をかたり、村の自立と交流に努めます
1. 皆助け合い、めんこい村をつくります

平成9年5月3日制定